

**ESRI政策フォーラム**  
**「静かなる有事」 少子化と男女共同参画**  
**【第1回】 人生100年時代の若者の恋と結婚**

---

若者にみられる恋愛の「変化」をふまえた  
新しい社会の構想に向けて  
永田夏来（兵庫教育大学大学院）

# 自己紹介

永田夏来  
兵庫教育大学大学院准教授

専門は家族社会学

乳幼児を育てている「若い母親」のインタビュー調査

地域のネットワークハブ（コワーキング、シェアハウス、各種イベント、SNS）などでのフィールドワーク

若者(20歳代後半から30歳代)のカルチャー、親密性、コミュニケーション

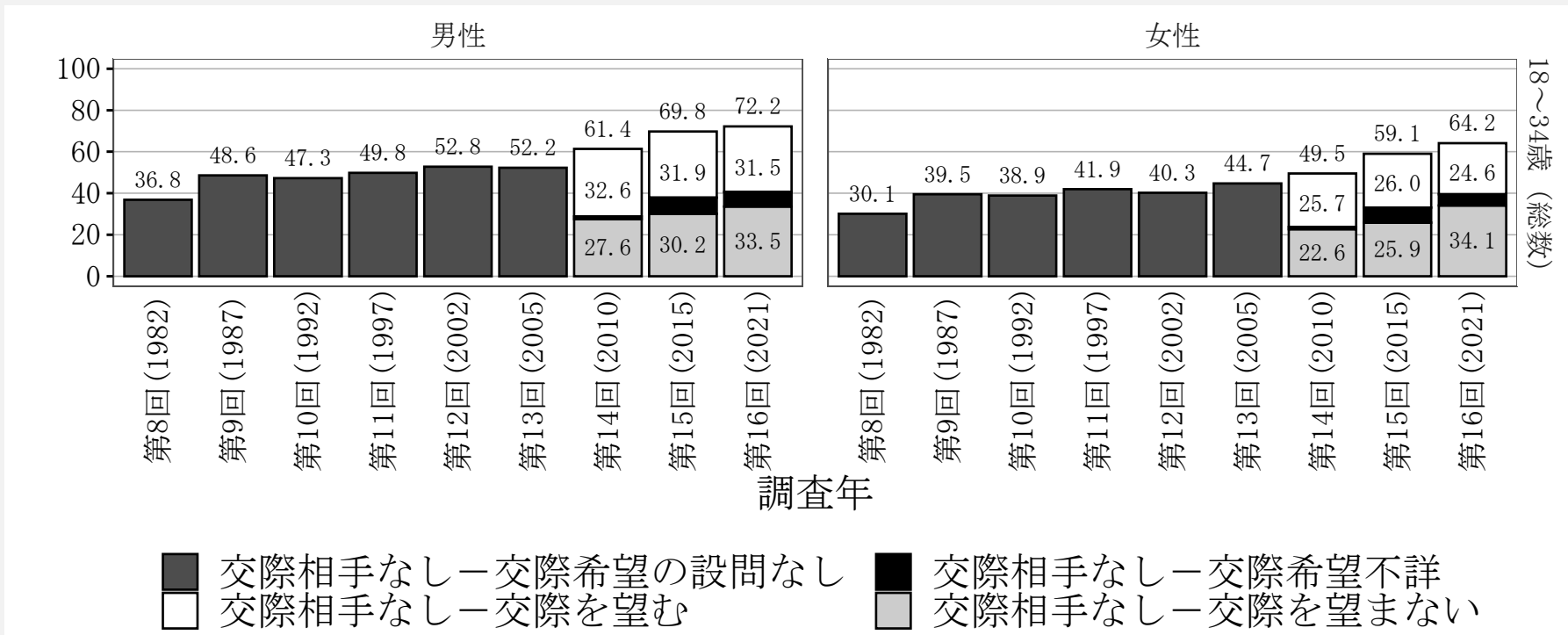


宮台真司・永田夏来・かがりはるき,2020,『音楽が聴けなくなる日』集英社新書  
高橋幸・永田夏来,2021,「これからの恋愛の社会学のために」『現代思想 特集  
〈恋愛〉の現在』青土社.



# 第16回出生動向基本調査のみどころ

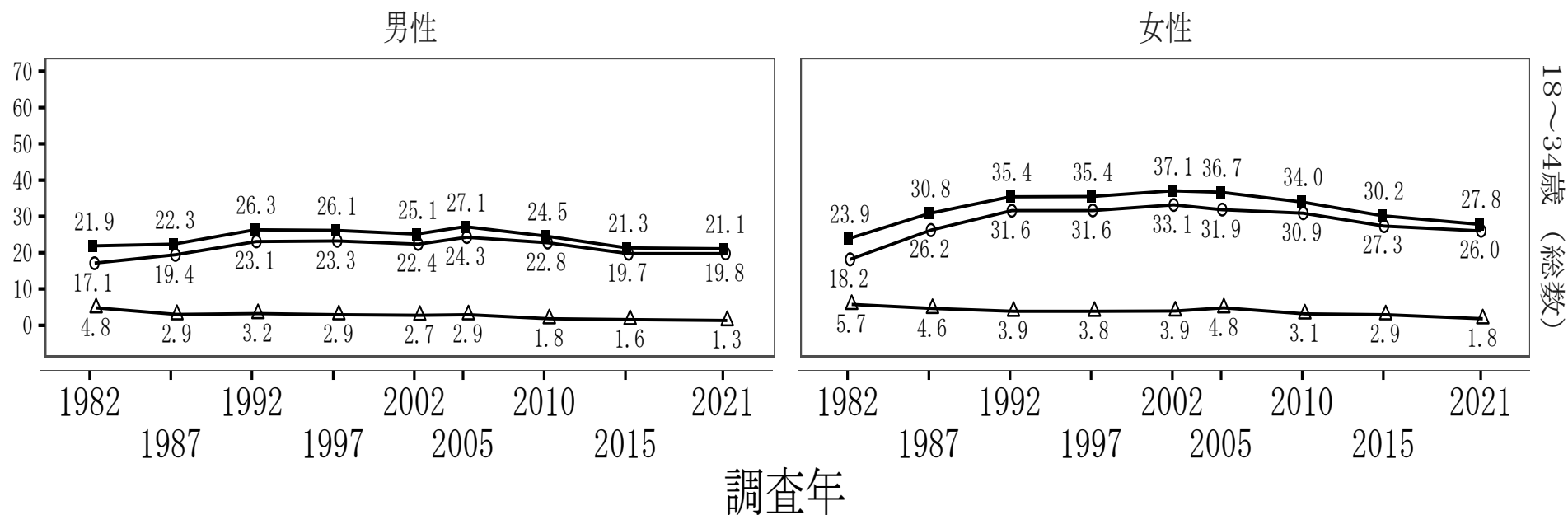
## 交際相手をもたない未婚者で交際を望まない人が増加



国立社会保障・人口問題研究所,2022,『第16回出生動向基本調査結果の概要』  
図表 2-2 調査・年齢別にみた、交際相手（異性の友人/恋人、婚約者）をもたない未婚者の割合と交際の希望（18～34歳総数）

# 異性との交際状況

「2000年代前半がピーク。今回は男性で2割で横ばい、女性は3割弱で前回から微減」



△ 婚約者がいる    ○ 恋人として交際している異性がいる    ■ 恋人または婚約者がいる (再掲)

国立社会保障・人口問題研究所,2022,『第16回出生動向基本調査結果の概要』  
 図表 2-1 調査・年齢別にみた、未婚者の異性との交際の状況 (18～34歳総数)

## 若者と恋愛のリアリティ（1）

飲み会で年長者から、恋人の有無や過去の恋愛についてしつこく聞かれるのが正直面倒くさい。それを赤裸々に語ることが「ぶっちゃけトーク」みたいに盛り上がるのも意味がわからない。別に聞かれたくない訳ではないけれど、なぜそれで盛り上げられるのかが分からないし、人が話したからしないことを執拗に聞くのが儀礼化しているのが厄介。

それで面白い経験がないと「つままない奴」みたいに思われるのも面倒で、期待に応えるために話を盛ったりでっち上げたりすることがある。自分には恋愛遍歴はなくても、ほかに面白いところがいっぱいあると思うのに、なんで恋愛の話がそんなに重要だと思えるのか。（男性・20代）

## 若者と恋愛のリアリティ（2）

付き合うからって**頻繁に会ったり**、**相手をいつでも最優先にする必要もない**と思うし、**一緒に住みたいとかも思わない**んだけど、付き合ったらそういう「付き合う」みたいなこと、カップルらしいことを求められるし、しなきゃいけないのかなって思うと、**自分の望む関係と一般的な恋愛のイメージが離れすぎていて疲弊**する。たまに会って、一緒に遊ぶだけで十分だと思うし。好きな人が複数いることもあって、好きな人が1人じゃなきゃいけないとか、複数いると浮気性って思われたりとかっていうのも窮屈に思う。（20代・女性）



## 恋愛至上主義、二元的ロマンスへの違和感

- 柴門ふみ, 1988-1989, 『東京ラブストーリー』小学館

結婚がゴールである  
周囲がライバル、恋人  
を取り合う  
排他性と代替不可能性

性と愛の一体化  
積極的／消極的な女性  
→この構図への違和感

# なぜ若者は恋愛を「避ける」のか

- 恋愛に対する社会的な位置づけと感情的な実態にずれがある
- 相手とのコンセンサスが見えにくく、関係が作りづらい

→バブル経済を背景に消費と恋愛が結びついてきた時代の負の遺産による抑圧

**多様化、撤退という単純な構図ではない**





# 古い問いは未来の課題を解決しない

- 未婚化晩婚化の分析
  - 原因として、見合いの衰退・出会いのなさ
  - 出会いのチャンネルは増えたが回復はみられない
- 「男女」交際の衰退の分析
  - 合計特殊出生率の回復につながるという前提
  - この前提そのものを検討する必要があるのでは

## 過去の因果を未来にそのまま適用する限界

- × 「もはや昭和ではない」
- 「もはや平成ではない」

# 新しい社会を構想するには

- 前例主義ではない理論展開が必要
- これまで示されてきた課題（選択的夫婦別姓、若者の経済的困難など）を先延ばしにせず、一つずつ速やかに解決する

新しい世代から忌避されない制度設計  
= 選択肢を増やし、制度を実態に近づける